

湯川記念館

北部構内の東側にある湯川記念館。今回はその見どころを紹介します。(KOP)

湯川記念館は湯川博士のノーベル賞受賞を記念し、1952年に京都大学北部構内に建設された。初めは京都大学の一施設であったが、全国の理論物理学研究者の要望に応じて、1953年日本初の全国共同利用研究所となり、湯川博士を初代所長に迎えて基礎物理学研究所として発足した。館内の1階には数多くの貴重な史料が収蔵されている「史料室」と湯川博士が在任中使っていた「旧所長室」がある。「史料室」に保管された史料は4万点近くに達しており、利用者の便宜を図るために分類、整理され湯川史料に関するリストの作成が随時行われている。後者の「旧所長室」は現在「湯川記念室」と呼ばれており、一般に公開されている。



▲湯川博士の銅像

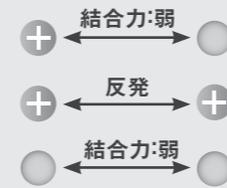


▲湯川博士が実際に使用していた旧所長室、現在の湯川記念室

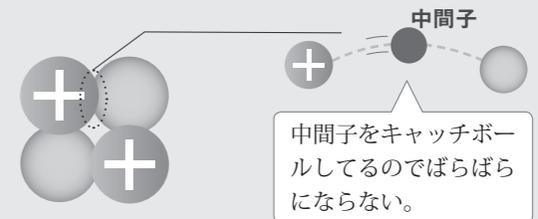
中間子の研究

⊕ ……陽子

○ ……中性子



中間子
があると……



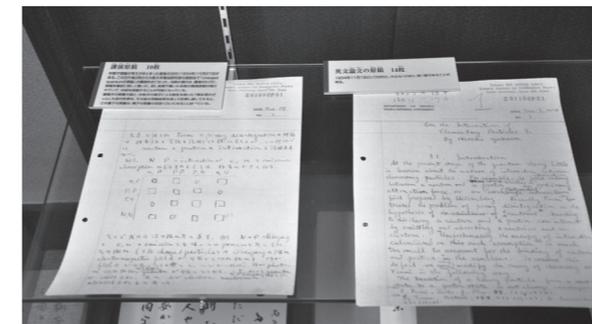
陽子と中性子からできている原子核。陽子同士はプラスの電荷を持つため反発し、電荷を持たない中性子は結合力が弱いにもかかわらず原子核は安定している。これは陽子と中性子をつなぎ、原子核を安定にする作用を持つ中間子によるものだ。湯川博士は中間子が発見される前にその存在を予言し、ノーベル賞を授与された。

湯川記念室について

記念館1階の南ウイング奥にあるのが「湯川記念室」だ。記念室の前に秘書室が構えてあり、湯川博士の写真が飾られている。記念室内には湯川博士が実際に使用していた机や椅子、書棚があり、本の並びなど細かい部分にも気を配られている。書物保存のために湿度管理は徹底されているが、学術目的であれば史料の閲覧を申請することも可能だ。当時の所長室の様子や雰囲気を楽しむことのできる神秘的な空間である。



▲ノーベル賞の賞状(複製)



▲記念室に展示されている手書き原稿

中間子論手書き原稿

数多くある史料の中でも特に貴重なものの中に、ノーベル賞を受賞した中間子論の手書き原稿や途中計算が書かれた史料、中間子論原稿に関する朝永振一郎氏から湯川博士への手紙が挙げられる。これらは1989年10月に京都大学理学部図書館の片隅で発見され、湯川博士の好意によって館内の史料室に保管されることになった。他にもノーベル賞メダルや賞状(複製)などが展示されており、どれも一度は拝んでおきたい代物である。

Who Is Dr. Yukawa?

理論物理学者。京都大学理学部物理学科卒業。大阪大学で講師をしていた1935年に中間子論を発表する。1947年にセシル・パウエルらによって実際に中間子が発見され、2年後日本人で初めてノーベル物理学賞を受賞。まだ敗戦後まもなく、生活困窮が続いていた日本にとって、このことは大きな希望と勇気を与えた。後にノーベル賞を受賞した朝永博士とともに素粒子物理学を開拓。京都大学・大阪大学名誉教授、京都市名誉市民。

(右の写真は京都大学基礎物理学研究所湯川記念館史料室提供)

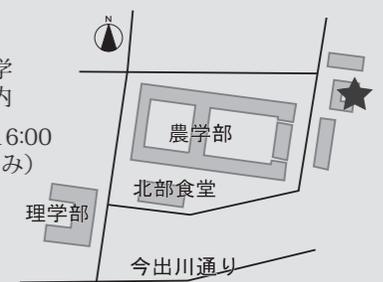


▲ノーベル賞のメダル(複製)

Information



場所……………京都大学
北部構内
見学時間……9:00~16:00
(平日のみ)
見学料……………無料



はみだし
すてーじ

どうやったらやせられるのですか
⇒僕には解決できそうにありません

(農・3 フリーズドライ)
(右ページの人に聞いてください;編)

はみだし
すてーじ

体重が増えないのが悩みです
⇒僕には解決できそうにありません

(工・2 モルノード)
(左ページの人に聞いてください;編)